

小児救急担当者の夜間 における診療と睡眠について

江原 朗
北海道大学 大学院 医学研究科
予防医学講座 公衆衛生学分野

目 的

- 小児科医の過重労働が新聞紙面で報じられているが、夜間休日の詳細な勤務実態の解析はあまりなされていない。この点を明らかにする。

方法

- 平成14年 社会医療診療行為調査
- 医療機関メディアス(平成14年)
(厚生労働省保険局調査課)
- 平成11年 東京消防庁による救急搬送に関する統計
上記統計から病院小児科における夜間の診療時間帯ごとの受診回数を推計

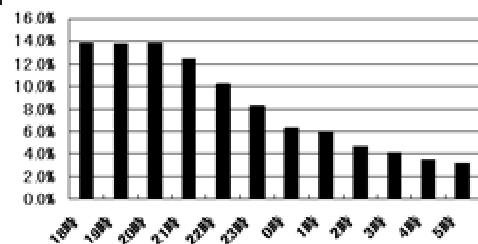
時間外受診の加算

平成14年	時間外休日深夜
初診:乳幼児 (6歳未満)	乳幼児時間外等加算 (102点)
再診:乳幼児 (3歳未満)	乳幼児時間外等加算 (65点)
再診:幼児 (3歳以上6歳未満)	幼児時間外等加算 (57点)

6月分の時間外等受診回数から 推計された年間時間外受診数

項目	平成14年6月(6歳未満)	受診回数
(ア) 乳幼児受診回数		9,421,594
(イ) 時間外受診の推計比率		7.6%
(ウ) (ア) × (イ)		719,450
(エ) 年間の小児科診療所医療費のうち6月分が占める比率		7.8%
(オ) 6歳未満の1年間の推計時間外等受診数: (ウ) ÷ (エ)		9,223,717

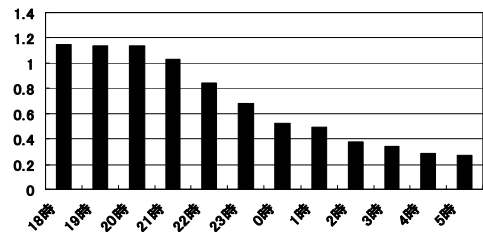
救急搬送の時間別比率 (平成11年東京消防庁:1から6歳)



1施設1日あたりの 時間外受診数の推計

- (ア) 6歳未満の1年間の推計時間外等受診数
 - (イ) 東京消防庁の1から6歳の救急搬送の時間帯別比率
 - (ウ) 小児科を有する一般病院数
(急患センターの数と救急を行っていない一般病院数がほぼ相殺)
- (ア) ÷ (ウ) ÷ 365日 × (イ) で
時間帯別受診数を推計

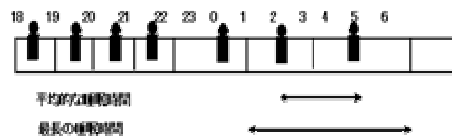
病院1施設1日あたりの 推計時間外受診数(6歳未満)



当直医が1人の場合の睡眠

- 6歳未満に限定した場合、18時から6時までの間に受診人数が平均1人以上となる時間帯は、18-19時、19-20時、20-21時、21-22時、22-0時、0-2時、2-5時である
- さらに、対象年齢は0から14歳までであり、現実にはこれよりも短い睡眠時間しか当番医は確保できないことになる。

1人当直時の小児科医の 最長睡眠時間



結果

- 6歳未満に限定してみれば、一般病院小児科に1日に受診する時間外等患者は平均8.26人に過ぎない。
- しかし、受診が夜間全般にわたっているため、小児科医は細切れの睡眠しかとることができない。
- 一般病院小児科1施設あたりの小児科医数は、平均2人強であり、彼らが2から3日に1回の割合で夜間に救急外来を行えば、体調を崩すことは明らかである。